令和4年度　半田中学校　学校評価計画

	自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	活動計画	評価指標	評価		学校関係者の意見	
学習指導	1. 授業を大切にし，各教科における基礎・基本を身につけることができる。	1. 各教科で基礎・基本を明確化し，小テストや基礎・基本を中心とした課題を継続的に反復学習させ，学習内容が分かった達成感や満足感を得られるようにする。	1.「学習内容が理解できている」と答えた生徒を40%以上とする。	1.「思う」「どちらかというと思う」と答えた生徒は86%だったが，「思う」は31%で，40%に達しなかった。	B		1. すべての生徒が「わかる喜び」を感じられるように，これまでの授業実践にICTを効果的に融合させ，基本的な学力と主体的に学ぶ意欲を育む授業づくりと指導の工夫・改善に引き続き取り組んでいく。
	2. 家庭学習の習慣を身につけ，宿題や課題をきちんとやり遂げることができる。	2.「学習の手引き」を機会を捉えて活用し，自主勉強の方法を示し，宿題以外の勉強の仕方が習得できるよう指導する。	2.「課題や自主学習を家でしている」と答えた生徒の割合を90%以上にする。	2.「思う」「どちらかというと思う」と答えた生徒は83%だったが，90%には達しなかった。	B		2. 各教科で適切な課題を設定するとともに，タブレットによる自主学習の具体的方法を示し，主体的な学習ができる生徒を，家庭と協力して育てていく。
生徒指導	1. いつでも，どこでも，誰に対しても気持ちの良いあいさつと正しい言葉遣いができる。	1. あいさつの意義やTPOに応じた言葉遣いの在り方について伝え，できていない場合にはその都度丁寧に指導する。	1.「できている」と答える生徒・保護者・教員の割合を90%以上にする。教員間で情報を交換し確認する。	1. 教員は挨拶について93%，言葉遣いについて100%だったが，生徒はどちらも88%，保護者が81%，86%で，90%に達しなかった。	B	別	1. 生きていく上での基本的マナーである挨拶やTPOに応じた言葉づかい，態度について，今後も継続して指導していく。また，生徒会による「あいさつ運動」など，生徒主体の取組をより活性化させ，生徒個々の意識を高める。
	2. 授業の始業・終業時のあいさつが丁寧にできる。	2.「正しく起立すること」「正しく礼をすること」「はっきりと発声すること」を毎時間継続して身につけさせる。	2.「できている」と答える生徒・教員の割合を100%にする。教員間で情報を交換し確認する。	2. 生徒が90%，教員が77%となり，100%に達しなかった。	B		2. 毎時間の授業で，「正しく起立すること」「正しく礼をすること」「はっきりと発声すること」の実践に継続して取り組む。
道徳・人権教育	1.生徒が「自分も人も大切に生活できている」と感じられる集団をつくる。	1. いじめなど学校生活に関するアンケートを行う。	1.「いじめのない学校である」と感じる生徒・保護者・教員の割合を100%にする。	1. 生徒が93%，保護者が81%，教員が100%となり，目標の100%に達しなかった。	B	紙	1. 教育活動全体を通じて，自分も人も大切にできる集団づくりに尽力し，アンケートや日々の声かけ，観察等による小さな変化も見逃さないきめ細かな指導を継続する。
	2. 思いやりや感謝の心を育て道徳性を高める。	2. 教材を工夫した授業や，体験活動の事前・事後学習を充実させる。	2. 自分の考えを書いたり発表したりすることを通して，自分の生き方を見つめている生徒が95%以上になる。	2.「思う」「どちらかというと思う」と答えた生徒は90%だったが，95%には達しなかった。	B		2. 人権や道徳の学習だけでなく，教育活動全体の中で人としてのよりよい生き方を考えられるようにする。また，教材の工夫や体験活動を通して，個々の生徒の気づきや学びを促し，道徳性が高まるよう取組を進める。
特別支援教育	1.「生きる力」を培うための，個々の生徒の特性や能力に応じた，個性や長所を生かす支援・指導に取り組む。	1. 個々の生徒の学習能力や，得意・長所を生かし，伸ばせる支援・指導に取り組む。特別支援学級においては，「個別の指導計画」「教育支援計画」を作成する。	1.「デジタル機器の使用等をはじめ視覚的・聴覚的にも工夫，配慮された，誰もがわかりやすい指導・支援の取り組みが行われている」と答える保護者が70%以上になる。	1.「思う」「どちらかというと思う」と答えた保護者は84%に達し，目標の70%以上を大きく上回った。	A	参	1. 一人一人の個性や特性を考慮した上で，タブレット等を有効に活用し，視覚的・聴覚的に「わかる授業」の指導や支援の充実を図り，個々の生徒の個別最適化が実現できるよう，今後も引き続き取組を進めていく。
	2. 特別支援教育について，また発達障がい等についての理解・啓発を図る。	2. 特別支援教育通信や，日々の教育活動全般を通して，生徒および保護者への理解・啓発を進める。	2.「発達障がいについて，知識・理解を得ることができた」と答える保護者・生徒が75%以上になる。	2.「思う」「どちらかというと思う」と答えた生徒は88%だったが，保護者は73%となり，ほぼ目標を達成できた。	B		2. 県教委発行のリーフレットの配布や学校・学年だより，また日々の教育活動全般を通して，特別な支援を必要とする子どもたちへの正しい理解と支援への協力について，引き続き啓発を行っていく。
健康・安全指導	1. 健康な生活を送るために，望ましい生活リズムを身につけ，習慣化できるようにする。	1. 朝食や睡眠を中心に，生活習慣やメディア機器の使用に関する内容を保健だよりや掲示物を使って啓発したり，様々な場面で指導したりする。	1.「毎日朝ごはんを食べている」生徒を90%以上，「毎日0時までに就寝できている」生徒を85%以上にする。	1.「毎日朝ごはんを食べている」生徒は88%，「0時までに就寝できている」生徒は59%で，目標を達成できなかった。	B	照	1. 家庭と学校の双方から健康教育を進められるよう，家庭への啓発を行う。また，保健指導や保健だより，掲示物等を有効に活用して，生徒の健康への関心や意欲を高め，実践力が身につくように指導を徹底する。
	2. 交通安全に対しての意識を高めると共に，交通ルールやマナーをしっかりと守れるような生活ができるようにする。	2. 交通安全教室や交通安全指導，学活や道徳などの授業を活用し，指導を進めていく。また，委員会活動で主体となった活動を行っていく。	2.「交通安全に気をつけてルールやマナーが守れている」と答える生徒を90%以上にする。	2.「思う」「どちらかというと思う」と答えた生徒は97%となり，90%以上を達成できた。	A		2. 交通安全教室や交通安全指導，学活などを通して，交通安全に気を付け，交通ルールがしっかりと守れるように指導を徹底する。また，生徒，保護者，教職員，地域など，様々な視点から生徒の安全を守る環境整備に取り組む。
開かれた学校づくり	1. 保護者や地域の方々の学校運営や教育活動についての理解を深めるようにする。	1. 職員間で協力し,魅力的な学校・学年通信，HP作りに努める。学校行事などに加えて普段の学校生活の様子も工夫して発信し，日常の様子を知ってもらう。	1.「学校での様子や部活動等について，学校・学年通信やHPなどによって知ることができている」と答える保護者を90%以上にする。	1. 知らせていると「思う」「どちらかというと思う」と答えた教員は100%であるのに対し，保護者は76%となり，90%に達しなかった。	B		1. 保護者や地域の方々に学校運営や日々の教育活動について発信する手段として，HPを積極的に活用する。作成者側の負担大にならないようバランスを取りながら，より魅力あるHP作成に努める。また，「まちこみメール」等のSNSの有効活用についても協議・検討する。
	2. 学校・家庭・地域の連携を深める。	2. 保護者・地域との連携を密にし，学校開放や学校行事への関心を高める。	2. コロナ禍を考慮し，感染対策の徹底しながら，保護者に開放できる学校行事を工夫して実施するとともに，地域と連携した学習を取り入れる。	2. 学校開放と運動会だけだが平日開催にもかかわらず，多くの方に参加いただいた。防災学習や福祉体験，職場体験等で，オンラインも取り入れ，地域と連携した学習が実施できた。	A		2. 次年度からは，この数年のコロナ禍による閉塞感も和らぐと予想される。健康で安全な教育活動に十分配慮しつつ，保護者や地域の方々に学校に足を運んでいただく機会や，地域と連携した学習の充実を図る。同時に，オンラインを有効に取り入れたハイブリッド型の教育活動も引き続き推進し，学校・家庭・地域の連携，学校の活性化に取り組む。